令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　119

事務事業名称		市有建築物整備・保全事業（施設整備課）						
担当部署（R8年度機構）		部：　都市整備部	課：　施設整備課			区分	持続的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	6.計画の推進に向けた基盤づくり				細区分	維持管理区分	
	総合計画 施策目標	31.持続可能な行財政運営を進めます				性質	市民生活サービス	
	市長公約との関係性	所信表明（R5年9月）	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　不明		～	事業終了予定：　未定（継続実施含む）			
	根拠法令等	枚方市事務決裁規程、枚方市市有建築物保全計画						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし				補助金性質：　—		
詳細項目	事業の目的（最終アウトカム）・目指すべき状態・課題が解決した状態	・市有建築物（学校以外）の利用者が安全で快適に利用することができている。						
	対象者（受益者）	・庁舎等の市有建築物（学校以外）を管理する各施設所管課 ・庁舎等の市有建築物（学校以外）の利用者						
	現状・課題	・市民が利用する市有建築物（学校以外）について、施設の安全性及び機能性を維持し施設の延命化を図るために、計画的な保全が必要。 ・市民が利用する市有建築物（学校以外）について、施設の利用目的やニーズに応じた適切な整備・改修が必要。 ・各施設運営に支障が少ない工事の実施が必要。 ・市内各所での工事に、現場での立会い、協議、調整にかかる人員割り当てやこれに伴う移動、待機時間の確保が必要。						
	事業の概要	・市民が利用する公共施設について、計画的な改修工事を実施し快適な市有建築物の維持保全を行う。						
	年間の主な事務	・枚方市市有建築物保全計画に基づく計画的な改修工事の実施 ・各施設所管課（学校以外）からの施設の利用目的等に応じた改修工事の実施						

2. 事務事業への投入コスト（インプット）

人員体制	（人）	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
	正職員	10.12人	9.96人	—	—
	再任用	0.32人	0.00人	—	—
	任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
	会計年度任用職員	0.32人	0.30人	—	—
	特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
	附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額	（千円）	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額（参考）	予算執行率（参考）
歳出 内訳	正職員、再任用、任期付職員	79,507	81,762	—	—		
歳出 内訳	会計年度任用職員	1,536	1,432	—	—		
歳出 内訳	特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳	附属機関委員	0	0	—	—		
歳出	人件費計	81,043	83,194	—	—		
歳出	物件費計	0	117	—	—	138	84.8%
歳出計		81,043	83,311	—	—		
歳入	国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入	府支出金	0	0	—	—	0	
歳入	受益者負担（使用料・手数料）	0	0	—	—	0	
歳入	市債	0	0	—	—	0	
歳入	その他	0	0	—	—	0	
歳入計（物件費に充当される特定財源）		0	0	—	—	0	
一般財源（物件費充当分のみ）		0	117	—	—	138	

（留意事項）
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 「市有建築物保全計画」及び各施設所管課（学校以外）からの改修等の依頼に基づく、建築、設備工事の発注及び工事監理	施設	25 施設	21 施設	— 施設	— 施設
② 工事監理業務での遠隔臨場の実施	件	— 件	1 件	— 件	— 件

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

アウトプット（活動が産み出した結果）

ロジックモデル　アウトプット①

説明	各施設所管課（学校以外）からの依頼に基づき発注した、各施設等の建築、設備工事の監理を実施する。
指標	期日までに完了できた工事の割合

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	100	100	100	100	%
実績	100	100	—	—	%
算出方法	工事を完了した件数／工期末が当該年度内となっている工事件数				

ロジックモデル　アウトプット②

説明	遠隔臨場を行う。
指標	遠隔臨場の実施によって削減した移動時間数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	—	6	12	24	時間
実績	—	8	—	—	時間
算出方法	遠隔臨場を実施した回数（1時間／回）×人員数				

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明	—
指標	—

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	—	—	—	—	—
実績	—		—	—	—
算出方法	—				

アウトカム②

説明	—
指標	—

	R6	R7	R8	R9	単位
目標					—
実績					—
算出方法	—				

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

・施設利用者の安全と快適性の維持
・施設の安全性及び機能性の維持と延命化
・施設の利用目的やニーズに応じた適切な整備

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	各施設所管課（学校以外）からの依頼に基づき発注した、各施設等の建築、設備工事の監理を実施し、期日までに完了させることができた。
R7年度	各施設所管課（学校以外）からの依頼に基づき発注した、各施設等の建築、設備工事の監理を実施し、期日までに完了させることができた。 また、遠隔臨場を導入し、移動時間を削減することで、監理業務の効率向上を図ることができた。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度取組方針	引き続き、期日までに工事が完了できるよう監理を行っていく。 また、遠隔臨場を浸透させていく。	R8年度方向性	現状維持

参考　方向性の経過	R6年度の方向性（R5実績測定）	R7年度の方向性（R6実績測定）	R8年度の方向性（R7実績測定）	R9年度の方向性（R8実績測定）	R10年度の方向性（R9実績測定）
	現状維持	現状維持	現状維持	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　322

事務事業名称		枚方市立禁野小学校整備事業						
担当部署（R8年度機構）		部：　都市整備部		課：　施設整備課		区分	持続的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち				細区分	投資的区分	
	総合計画 施策目標	16.子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち				性質	子育て・教育	
	市長公約との関係性	所信表明（R5年9月）	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					○	○		
	事業期間	事業開始：　2022(R4)年度　～　事業終了予定：　2026(R8)年度						
	根拠法令等	地方教育行政の組織及び運営に関する法律、枚方市学校規模等適正化基本方針【改定版】、枚方市学校規模等適正化実施プラン						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質：　—						
詳細項目	事業の目的（最終アウトカム）・目指すべき状態・課題が解決した状態	義務教育の教育環境面における公平性を確保し、教育環境の整備・向上を図られている。						
	対象者（受益者）	・禁野小学校区（旧中宮北小学校区、旧高陵小学校区）の児童 ・禁野小学校区（旧中宮北小学校区、旧高陵小学校区）の児童の保護者及び近隣住民						
	現状・課題	各小学校ともに小規模校であり、将来推計においても児童数の増加により、枚方市学校規模等適正化基本方針【改定版】に基づく適正規模の範囲になる見込みがなく、一定の学校規模を確保することにより教育環境の改善を図る必要がある。						
	事業の概要	「枚方市学校規模等適正化基本方針【改定版】」並びに「枚方市学校規模等適正化実施プラン（高陵小学校と中宮北小学校）」に基づき、令和4年度から禁野小学校として学校統合を行い、旧高陵小学校敷地にて新校舎を整備し令和8年度中の移転をめざす。なお、建て替えの間、旧高陵小学校の児童を旧中宮北小学校で受け入れ、不足する教室をリース方式により設置する。						
	年間の主な事務	・計画的な工事の実施と工事監理 ・新しい学校づくり協議会など教育委員会、地域コミュニティ及び自治会等や関係機関との連携 ・市公式HPでの工事の進捗報告（月平均1件）						

2. 事務事業への投入コスト（インプット）

人員体制	（人）	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
	正職員	2.20人	2.33人	—	—
	再任用	0.00人	0.00人	—	—
	任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
	会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
	特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
	附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額	（千円）	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額（参考）	予算執行率（参考）
歳出 内訳	正職員、再任用、任期付職員	16,914	19,127	—	—		
歳出 内訳	会計年度任用職員	0	0	—	—		
歳出 内訳	特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳	附属機関委員	0	0	—	—		
歳出	人件費計	16,914	19,127	—	—		
歳出	物件費計	729,030	2,547,725	—	—	2,706,991	94.1%
歳出計		745,944	2,566,852	—	—		
歳入	国庫支出金	302,999	814,220	—	—	963,511	
歳入	府支出金	0	0	—	—	0	
歳入	受益者負担（使用料・手数料）	0	0	—	—	0	
歳入	市債	345,600	1,498,300	—	—	1,620,000	
歳入	その他	56,765	166,548	—	—	1,249,110	
歳入計（物件費に充当される特定財源）		705,364	2,479,068	—	—	3,832,621	
一般財源（物件費充当分のみ）		23,666	68,657	—	—	0	

（留意事項）
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 禁野小学校新校舎に係る設計業務、工事期間中の教室棟のリース、解体工事の実施	百万円	111 百万円	28 百万円	— 百万円	— 百万円
② 禁野小学校新校舎の整備工事の実施	百万円	618 百万円	2,522 百万円	— 百万円	— 百万円

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

アウトプット（活動が産み出した結果）

ロジックモデル　アウトプット①

説明	禁野小学校新校舎に係る設計業務、工事期間中の教室棟リース、旧高陵小学校校舎解体工事を適正に実施する。
指標	禁野小学校新校舎の設計・工事期間中の教室棟のリース、解体工事の進捗度

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	95	100	—	—	%
実績	95	100	—	—	%
算出方法	支払い額より算出（※令和5年度までに71%実施済み）				

ロジックモデル　アウトプット②

説明	禁野小学校新校舎の整備を適正に実施する。
指標	禁野小学校新校舎整備の工事進捗度

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	19	91	100	—	%
実績	19	94	—	—	%
算出方法	新築工事の出来高額／契約金額				

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明	—
指標	—

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	—	—	—	—	—
実績	—		—	—	—
算出方法	—				

アウトカム②

説明	—
指標	—

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	—	—	—	—	—
実績	—		—	—	—
算出方法	—				

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

令和8年度2学期の開校に向けて新校舎を完成させる。（中間）

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	令和4年度に設計施工一括型DB方式により事業者を選定、契約を締結し、解体工事、基本設計を進めてきたが、令和6年度は実施設計を完了し、7月より新校舎建設工事に着手した。
R7年度	新校舎建設工事が予定通り進捗し、令和7年度末で校舎部分が概ね完了した。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度取組方針	2学期からの新校舎での開校に向けて、外構工事を進める。	R8年度方向性	現状維持

参考　方向性の経過	R6年度の方向性（R5実績測定）	R7年度の方向性（R6実績測定）	R8年度の方向性（R7実績測定）	R9年度の方向性（R8実績測定）	R10年度の方向性（R9実績測定）
	現状維持	現状維持	現状維持	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　334

事務事業名称		学校整備・保全事業（施設整備課）						
担当部署（R8年度機構）		部：　都市整備部		課：　施設整備課		区分	持続的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち				細区分	維持管理区分	
	総合計画 施策目標	16.子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち				性質	子育て・教育	
	市長公約との関係性	所信表明（R5年9月）	○	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					○	○		
	事業期間	事業開始：　不明　～　事業終了予定：　未定（継続実施含む）						
	根拠法令等	地方教育行政の組織及び運営に関する法律、枚方市学校整備計画						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質：　—						
詳細項目	事業の目的（最終アウトカム）・目指すべき状態・課題が解決した状態	学校施設を利用する児童・生徒等が安全で快適に利用でき、教育環境の向上が図られている。						
	対象者（受益者）	・枚方市の公立小中学校に通学する児童・生徒 ・枚方市の公立小中学校を利用する市民全般						
	現状・課題	・多くの学校が一斉に更新時期を迎えることから、財政負担の平準化を図る必要がある。 ・時代のニーズに適した教育環境の質的向上や学校施設に備えるべき施設・設備への更新を図る必要がある。 ・学校施設を利用する児童・生徒を主とした利用者が、安全で快適に利用できるよう必要な施設整備や保全の実施が必要がある。 ・学校運営に支障が少ない工事の実施が必要。 ・市内各所での工事に、現場での立会い、協議、調整にかかる人員割り当てやこれに伴う移動、待機時間の確保が必要。						
	事業の概要	・枚方市学校整備計画に基づき、学校施設の総合的かつ計画的な整備や保全の推進を図る。						
	年間の主な事務	・枚方市学校整備計画に基づく計画的な整備・保全工事の実施						

2. 事務事業への投入コスト（インプット）

人員体制	（人）	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
	正職員	20.41人	20.04人	—	—
	再任用	0.46人	0.00人	—	—
	任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
	会計年度任用職員	0.46人	0.50人	—	—
	特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
	附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額	（千円）	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額（参考）	予算執行率（参考）
歳出	内訳 正職員、再任用、任期付職員	159,363	164,508	—	—		
	内訳 会計年度任用職員	2,208	2,387	—	—		
	内訳 特別職非常勤	0	0	—	—		
	内訳 附属機関委員	0	0	—	—		
	人件費計	161,571	166,895	—	—		
	物件費計	2,675,621	1,581,851	—	—	2,262,023	69.9%
歳出計		2,837,192	1,748,746	—	—		
歳入	国庫支出金	448,092	272,509	—	—	1,183,397	
	府支出金	0	0	—	—	0	
	受益者負担（使用料・手数料）	0	0	—	—	0	
	市債	2,044,700	1,243,800	—	—	1,806,733	
	その他	48,861	0	—	—	0	
歳入計（物件費に充当される特定財源）		2,541,653	1,516,309	—	—	2,990,130	
一般財源（物件費充当分のみ）		133,968	65,542	—	—	0	

（留意事項）
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 「枚方市学校整備計画」に基づく学校施設における建築、設備工事の発注及び工事監理	校	40 校	22 校	— 校	— 校
② 「枚方市学校整備計画」に基づく学校施設における電灯設備改修工事(LED化改修)の発注及び工事監理	棟	8 棟	15 棟	— 棟	— 棟
③ 「学校施設のエレベーター整備等に関する方針」に基づく学校施設における建築、設備工事の発注及び工事監理	校	4 校	6 校	— 校	— 校
④ 工事監理業務での遠隔臨場の実施	件	— 件	4 件	— 件	— 件

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

アウトプット(活動が産み出した結果)

ロジックモデル

アウトプット①

説明	発注した各校の建築、設備工事の監理を実施する。					
指標	期日までに完了できた工事の割合					
		R6	R7	R8	R9	単位
	目標	100	100	100	100	%
	実績	100	100	—	—	%
	算出方法	工事を完了した件数／工期末が当該年度内となっている工事件数				

ロジックモデル

アウトプット②

説明	照明器具のLED化を行う。					
指標	小中学校の照明器具のLED化が完了した棟数					
		R6	R7	R8	R9	単位
	目標	205	220	268	320	棟
	実績	205	220	—	—	棟
	算出方法	LED化が完了した棟の累積数				

ロジックモデル

アウトプット③

説明	エレベーターの設置を行う。					
指標	エレベーター設置済み小中学校数					
		R6	R7	R8	R9	単位
	目標	10	13	17	22	校
	実績	10	13	—	—	校
	算出方法	エレベーター設置済み校数				

ロジックモデル

アウトプット④

説明	遠隔臨場を行う。					
指標	遠隔臨場の実施によって削減した移動時間数					
		R6	R7	R8	R9	単位
	目標	—	24	48	96	時間
	実績	—	32			時間
	算出方法	遠隔臨場を実施した回数(1時間／回)×人員数				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	—					
指標	—					
		R6	R7	R8	R9	単位
	目標	—	—	—	—	—
	実績	—		—	—	—
	算出方法	—				

アウトカム②

説明	—					
指標	—					
		R6	R7	R8	R9	単位
	目標	—	—	—	—	—
	実績	—		—	—	—
	算出方法	—				

アウトカム③

説明	—					
指標	—					
		R6	R7	R8	R9	単位
	目標	—	—	—	—	—
	実績	—		—	—	—
	算出方法	—				

アウトカム④

説明	—					
指標	—					
		R6	R7	R8	R9	単位
	目標					—
	実績					—
	算出方法	—				

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

・児童、生徒を主とした学校施設利用者の安全と快適性の維持
・避難所としての機能維持
・設備、器具更新等による省エネルギー化
・学校施設のバリアフリー化

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6 年度	発注した各校の建築、設備工事の監理を実施し、期日までに完了させることができた。 また、小中学校の照明器具のLED化やエレベーターの設置を進めることができた。
R7 年度	発注した各校の建築、設備工事の監理を実施し、期日までに完了させ、小中学校の照明器具のLED化やエレベーターの設置を進めることができた。 また、遠隔臨場を導入し、移動時間を削減することで、監理業務の効率向上を図ることができた。
R8 年度	
R9 年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度 取組方針	引き続き、期日までに工事が完了できるよう監理を行っていく。 また、遠隔臨場を浸透させていく。	R8年度 方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性 （R5実績測定）	R7年度の方向性 （R6実績測定）	R8年度の方向性 （R7実績測定）	R9年度の方向性 （R8実績測定）	R10年度の方向性 （R9実績測定）
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　453

事務事業名称		学校空調設備更新・維持管理事業						
担当部署(R8年度機構)		部:　都市整備部		課:　施設整備課		区分	持続的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち				細区分	維持管理区分	
	総合計画 施策目標	16.子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち				性質	子育て・教育	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					○	○		
	事業期間	事業開始：　2020(R2)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	地方教育行政の組織及び運営に関する法律						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	小中学校の児童・生徒等が、安全で快適に教室等や体育館の施設を利用することができ、教育環境の向上が図られている。						
	対象者(受益者)	・枚方市の公立小中学校に通学する児童・生徒 ・枚方市の公立小中学校を利用する市民全般						
	現状・課題	・小中学校の児童・生徒を主とした利用者が、安全で快適に教室等や体育館の施設を利用することができない。 ・更新時期を迎えた空調設備については、計画的な更新を行う必要がある。 ・体育館については熱中症対策だけではなく、避難施設として環境向上を図る必要がある。						
	事業の概要	小中学校の教室等や体育館空調設備の整備・更新、点検・清掃・修理などの維持管理を実施する。						
	年間の主な事務	計画的な空調設備の整備、更新 ・空調設備の適正な維持管理						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	2.70人	2.98人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出 内訳 正職員、再任用、任期付職員	20,758	24,463	—	—		
歳出 内訳 会計年度任用職員	0	0	—	—		
歳出 内訳 特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳 附属機関委員	0	0	—	—		
歳出 人件費計	20,758	24,463	—	—		
歳出 物件費計	1,418,262	1,044,142	—	—	2,456,774	42.5%
歳出計	1,439,020	1,068,605	—	—		
歳入 国庫支出金	0	208,141	—	—	208,141	
歳入 府支出金	0	0	—	—	0	
歳入 受益者負担(使用料・手数料)	0	0	—	—	0	
歳入 市債	1,335,900	764,000	—	—	1,844,000	
歳入 その他	0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)	1,335,900	972,141	—	—	2,052,141	
一般財源(物件費充当分のみ)	82,362	72,001	—	—	404,633	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 教室等の空調設備更新	室	0 室	276 室	— 室	— 室
② 教室等の空調設備維持管理	室	2,519 室	2,532 室	— 室	— 室
③ 体育館の空調設備整備	棟	52 棟	— 棟	— 棟	— 棟
④ 体育館の空調設備維持管理	棟	56 棟	62 棟	— 棟	— 棟

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

アウトプット（活動が産み出した結果）

ロジックモデル

アウトプット①

説明：教室等の空調設備更新を適正に実施する。

指標：空調設備の更新室数に対しての実施率

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	0	100	100	100	%
実績	0	100	—	—	%

算出方法：更新実施室数／更新室数

ロジックモデル

アウトプット②

説明：教室等の空調設備維持管理を適正に実施する。

指標：教室等の空調設備維持管理室数に対しての実施率

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	100	100	100	100	%
実績	100	100	—	—	%

算出方法：維持管理実施室数／維持管理室数

ロジックモデル

アウトプット③

説明：体育館の空調設備整備を実施する。

指標：体育館の空調設備整備棟数に対しての実施率

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	100	—	—	—	%
実績	100	—	—	—	%

算出方法：整備実施棟数／整備棟数

ロジックモデル

アウトプット④

説明：体育館の空調設備維持管理を適正に実施する。

指標：体育館の空調設備維持管理棟数に対しての実施率

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	100	100	100	100	%
実績	90	100	—	—	%

算出方法：維持管理実施棟数／維持管理棟数

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明：—

指標：—

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	—	—	—	—	—
実績	—		—	—	—

算出方法：—

アウトカム②

説明：—

指標：—

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	—	—	—	—	—
実績	—		—	—	—

算出方法：—

アウトカム③

説明：—

指標：—

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	—	—	—	—	—
実績	—		—	—	—

算出方法：—

アウトカム④

説明：—

指標：—

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	—	—	—	—	—
実績	—		—	—	—

算出方法：—

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

小中学校の児童・生徒を主とした利用者が、安全で快適に教室等や体育館の施設を利用することができ、教育環境が向上する。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6 年度	計画どおり小学校43校及び中学校19校の体育館に空調設備設置を完了したが、このうち6校は完了が3月末となったため、翌年度からの維持管理実施となる。
R7 年度	計画通り小学校12校及び中学校15校の教室等の空調設備の更新を完了し、維持管理を実施している。
R8 年度	
R9 年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度 取組方針	体育館空調整備に関しては、引き続き維持管理を実施していく。 教室等空調整備に関しては、令和9年度までに更新対象室の空調設備を更新し、引き続き維持管理対象室の空調設備について維持管理を実施していく。	R8年度 方向性	**現状維持**

参考	方向性の経過				
	R6年度の方向性 （R5実績測定）	R7年度の方向性 （R6実績測定）	R8年度の方向性 （R7実績測定）	R9年度の方向性 （R8実績測定）	R10年度の方向性 （R9実績測定）
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　458

事務事業名称		教室不足対応事業						
担当部署(R8年度機構)		部:　都市整備部		課:　施設整備課		区分	持続的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち				細区分	維持管理区分	
	総合計画 施策目標	16.子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち				性質	子育て・教育	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　2020(R2)年度　～　事業終了予定：　2027(R9)年度						
	根拠法令等	地方教育行政の組織及び運営に関する法律						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし				補助金性質:　—		
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	必要な教室数が確保されている。						
	対象者(受益者)	・学校施設を利用する児童・生徒 ・学校施設を利用する市民全般						
	現状・課題	学校施設を利用する児童・生徒等が、安全で快適に利用できるように不足する教室の施設整備を図る必要がある。						
	事業の概要	・運用では解消できない教室数不足が生じると予測される場合、教育環境の整備・向上を図るため、教室を新たに整備する。						
	年間の主な事務	・不足する教室の整備 ・賃貸借料(維持管理料を含む)の支払い						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.35人	0.25人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	2,691	2,052	—	—		
		会計年度任用職員	0	0	—	—		
		特別職非常勤	0	0	—	—		
		附属機関委員	0	0	—	—		
	人件費計		2,691	2,052	—	—		
	物件費計		51,222	51,222	—	—	51,222	100.0%
歳出計			53,913	53,274	—	—		
歳入	国庫支出金		0	0	—	—	0	
	府支出金		0	0	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	0	—	—	0	
	市債		0	0	—	—	0	
	その他		0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			0	0	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)			51,222	51,222	—	—	51,222	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① リース方式で設置している教室数	室	13 室	13 室	— 室	— 室

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明	教室数不足の解消					
指標	不足教室数					
		R6	R7	R8	R9	単位
	目標	0	0	0	0	教室
	実績	0	0	—	—	教室
	算出方法	不足教室数				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	—					
指標	—					
		R6	R7	R8	R9	単位
	目標	—	—	—	—	—
	実績	—		—	—	—
	算出方法	—				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

・必要な教室数に対応した適切な教育環境の維持

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	教室数が不足すると予測された小学校・中学校のうち、令和4年度、令和5年度に整備した津田中学校3教室、枚方中学校4教室、令和5年度に菅原東小学校6教室のリース契約に基づく支払いを行った。
R7年度	教室数が不足すると予測された小学校・中学校のうち、令和4年度、令和5年度に整備した津田中学校3教室、枚方中学校4教室、令和5年度に菅原東小学校6教室のリース契約に基づく支払いを行った。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度取組方針	児童・生徒数の増加により、教室数が不足すると予測される学校における教育環境の整備・向上を図るため、教室整備(ハード面)について検討していく。なお、津田中学校3教室、枚方中学校4教室のリース契約は令和9年3月をもって完了する。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　955

事務事業名称		施設整備課運営事務						
担当部署(R8年度機構)		部:　都市整備部		課:　施設整備課		区分	行政運営事業	
基本項目	総合計画 基本目標	9.施策体系外				細区分	行政運営区分	
	総合計画 施策目標	99.施策体系外				性質	内部事務・行政運営	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　不明		～	事業終了予定：　未定(継続実施含む)			
	根拠法令等	枚方市事務決裁規定						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし				補助金性質:	—	
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	課の運営業務が円滑に実施できている。						
	対象者(受益者)	・課の所管事務を行う職員 ・課の所管事務に関わる他部局の職員						
	現状・課題	課の運営業務を円滑に実施する必要がある。						
	事業の概要	課の運営業務						
	年間の主な事務	課の運営及び予算等の事務						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	2.95人	2.86人	—	—
再任用	0.02人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.02人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	22,786	23,478	—	—		
		会計年度任用職員	96	0	—	—		
		特別職非常勤	0	0	—	—		
		附属機関委員	0	0	—	—		
	人件費計		22,882	23,478	—	—		
	物件費計		54	162	—	—	236	68.6%
歳出計			22,936	23,640	—	—		
歳入	国庫支出金		0	0	—	—	0	
	府支出金		0	0	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	0	—	—	0	
	市債		0	0	—	—	0	
	その他		0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			0	0	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)			54	162	—	—	236	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① ―					

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

ロジックモデル

アウトプット（活動が産み出した結果）

アウトプット①

説明：―

指標：―

	R6	R7	R8	R9	単位
目標					―
実績					―
算出方法	―				

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明：―

指標：―

	R6	R7	R8	R9	単位
目標					―
実績					―
算出方法	―				

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

―

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	課の運営業務が円滑に実施できた。
R7年度	課の運営業務が円滑に実施できた。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度取組方針	引き続き、課の運営業務を円滑に実施していく。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性（R5実績測定）	R7年度の方向性（R6実績測定）	R8年度の方向性（R7実績測定）	R9年度の方向性（R8実績測定）	R10年度の方向性（R9実績測定）
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	―	―